

彌永昌吉氏欧文書簡について 2

飯高 茂

はじめに

学習院大学史料館に保管されている彌永昌吉氏の遺された1960から70年代の欧文書簡を整理し、2009年度の学習院大学史料館紀要に「彌永昌吉氏欧文書簡について1」として発表した。それは主にフランスの数学者、Henri Cartanとの書簡に関してであった。今回は、フランスの数学者、シュバレイ教授（C. Chevalley）との往復書簡目録を作成し、その一部の抄訳を試みた。学習院大学理学部嘱託、名和田雅子氏の献身的な努力があってようやくこの形にまとめられた。記して感謝したい。最初に氏の経歴などを紹介する。

彌永昌吉氏について

彌永昌吉氏は1906年4月2日、東京生まれ。第一高等学校を卒業後、東京帝国大学理学部数学科に入り1929年に卒業後大学院に進み1931年に渡欧、ドイツとフランスで研究生活をおくる。1934年に帰国し、1935年に東京大学理学部助教授、1942年同教授。1967年東京大学を定年退官。1967～77年学習院大学教授。1978年から日本学士院会員。2006年6月1日100歳と2ヶ月で死去。

シュバレイ（C. Chevalley）について

C. Chevalley について主にインターネットの辞典 Wikipedia によって簡単に紹介する。

シュバレイは数学者。1909年2月11日、南アフリカのヨハネスブルク生まれ。1984年6月28日パリで死去。整数論、とくに類体論、代数幾何、群論（シュバレイ群など）、有限群論と代数群で顕著な業績を残した。また数学者集団ブルバキの創立者の一人。

父はフランスの外交官でコンサイス・オックスフォード仏語辞書の著者。1929年にエコールノルマルを卒業。エコールノルマルでは数学者 Emile Picard について学び、同時にハンブルク大学で Emil Artin, マルブルク大学で Helmut Hasse の元で整数論を研究した。ドイツ滞在中、日本の数学者彌永昌吉と交遊し、日本の数学に出会った。1933年パリ大学から類体論の研究で理学博士の学位を取得。第2次大戦中はアメリカに滞在し、プリンストン大学、およびコロンビア大学で研究生活を送った。学術論文は主に英語で発表している。戦争が終わり、後に、パリ VII 大学教授になる。パリでは、Cartan-Chevalley セミナーなどを組織して現代数学の形成へ大きな貢献をした。

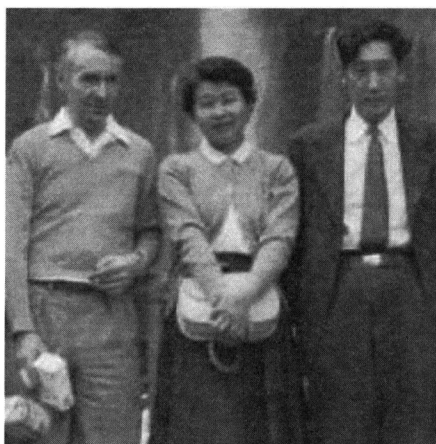
彌永昌吉氏とシュバレイとの関係

日本数学会機関誌『数学』（1992年12月44号4巻、pp352-356）に「彌永昌吉先生にお話を伺う」という記事がありそこでヨーロッパに留学した時代の思い出を述べ、シュバレイとの出会い交流について語っている。そこから、一部を引き写してみよう。

「当時のドイツは大戦後の超インフレが収まったばかりでしたから円は高かったのです。留学する人も私費で行く人が多かったのです。ちょうど1931年フランス政府の留学生試験が始まったので、当時フランス語を習っていたアテネ・フランセの校長先生にすすめられて受けたら受かっちゃったのです。実は、その頃は整数論ならドイツだったのでドイツに行きたかったのです。（ドイツ語は一高で習いました。）当時はフランス政府の留学生試験に受かっても、すぐフランスに行くというのではなく1年間日本にいて、さらにフランス語を勉強することになっていました。しかしドイツに行きたかったし、高木先生が Artin に手紙を書いて下さったりしたこともあり、結局「ドイツに行って、フランス語を勉強しますから」ということで、1931年に出発しました。下関から、釜山を経て鴨緑江を渡り満州からシベリア鉄道でドイツに行ったのですが、着いてから2週間前後で満州事変が始まったのでした。

ベルリンを経て秋からハンブルクに行き、そこで Artin に会いました。そのとき33歳でもう教授になっていました。若くて親切な人でした。2回目くらいに Artin の部屋にいったところ Chevalley がいたんです。彼はフランスからきたばかりで、ドイツ語が自由でなかったので、僕とはフランス語で話しました。それに下宿も近かったから親しくなり、ドイツでフランス語を習うことが偶然できたことになりました（大笑い）。」

注：日本数学会機関誌『数学』の当時の編集長は、飯高がしており、彌永昌吉氏へのインタビューを実際に行きつとめたのは、飯高と中島匠一（当時は東京大学助教授、現在は学習院大学教授）である。



右は彌永昌吉氏、左はシュバレイ、中央は宮島茂子
(1955年に日光で開かれた、代数的整数論の国際シンポジウムに出席した折に華嚴の滝を前にとられた写真。宮島茂子さんは日本学術会議から派遣されて通訳を務めた。)

彌永昌吉氏とシュバレイとの往復書簡目録

次の表にまとめたように書簡数は総数 60 に及ぶ。Sylvie Chevalley は Chevalley 夫人であり手書きの書簡である。

年	発信者			
	Chevalley	Sylvie Chevalley	Iyanaga	総計
1954	2	1		3
1961		1		1
1963	1		4	5
1964	1	4	12	17
1965		4	6	10
1966	1		1	2
1970	1		3	4
1971			1	1
1972	1		5	6
1973	1	1	2	4
1974			3	3
1975		2	1	3
1976			1	1
総計	8	13	39	60

フランス語で書かれた書簡の内いくつかを抄訳してみた。およその雰囲気かわかれば幸いである。訳出は名和田雅子さんによる。

Chevalley から彌永昌吉氏へ

1973年6月2日

親愛なる友、

高木記念研究集会の参加者の署名が記されたカードと手紙を受け取りました。その全ての方々に私は敬意を抱き、またその幾人かは特別に結びつきのある方々であり、友情の表明に深く感動いたしました。特に、高木記念の集会であることにいっそう感慨深いものがありました。高木氏は出版のために、当時無名の若い数学者であった私の読みにくい学位論文を喜んで受理してくれ、私が辿ってきた道へと私を励ましてくれたのです。このことは忘れられません。

署名して下さった皆様方に 私の謝意を伝えてください。

そして、君には、私が稀にしか手紙を書かないことは一生涯に渉る友情が冷めたわけではないことを信じてほしい。

C.Chevalley

Chevalley から彌永昌吉氏へ

1964年7月8日

拝啓

中山正氏の死去にはとてもつらい思いをしました。彼はすぐれた数学者であると同時に、非常に親切で、他人に対して心遣いや思いやりにあふれた人でした。皆の話では、彼の健康状態はこのところ極めて良好だったそうで、一層悲しく感じます。ごく最近彼に会った Dieudonné もまた、非常に驚きまた悲しんでいました。

(中略)

私は Normandie での Congres Bourbaki に招かれて出席し、今戻ったところです。
(というのは現在定年に達した会員は Congres には招待によってのみ出席することになるのです。) —おかげですばらしい時をすごしました。とても楽しい 15日間でした。

(中略)

友情をこめて

C.Chevalley

Chevalley 氏から彌永昌吉氏へ

1970年6月12日

拝啓

君の手紙を読んで、お互い種々の職務で厄介なことに巻き込まれていることがわかりました。

フランスと同様日本でも、[学生運動への] 反動や鎮圧の動きが増しているように思われます。(中略)
純粋研究なるものすべて、フランスでは勢いをそがれています。フランスでは、直接的に産業の発展を促進させることしか考えなくなりました。それはこの国の魅力の究極の要素を消滅させ、

人を不快な目に遭わせることになるのです。

それにしても、この困難な世の中に子供を持つとする若い人たちを賞賛する気になります。君はおじいさんになることを喜び、また生命が連続していくことに驚嘆しているのですね。

大学側の反動の動きはフランス中で激しく起こっています。最近の出来事では物理の講師 L-L 氏に関わる件。学部の建築物の壁に落書きをした件で Z (III) 学部長の告発によって起訴されました。しかし、それは 68 年の 5 月に誕生した希望が徐々に失われようとしていることを示す出来事の一つにすぎません。

ご存じの通り、この冬かなり具合が悪くなりました。脳の動脈にトラブルがあり、そのために目眩や様々な感覚の異常が起きているのです。

私は 4 ヶ月休職し、休息しました。そのお陰で、今はずいぶん良くなり普通の活動ができるようになりました。私は Vincennes にいることを喜んでいますが、この大学は他とは少しちがうのです。この数学科はかなり同種の人間の集まりで、全体として互いに理解し合い、また友情で結ばれています。それは、大学のあらゆる部分で勢いを増している憎悪の中でオアシスのように感じます。

(中略)

この夏君に会えるのがうれしい。私は多分 Congres に 1 日か 2 日間出るでしょう。

Grothendieck と私は、軍の仕事に数学者が参加することに反対する文書を用意しました。これら全てが発表される時、そこに居れたらよいと考えています。とにかく 9 月 1 日にはパリに戻ってきますから、いずれの場合も (Nice に私が行かない場合も含めて) Congres の後お会いできるといいですね。

Sylvie と私から、君と Sumiko に心からの友情をこめて。

C.Chevalley

彌永昌吉氏から Chevalley へ

1970 年 11 月 30 日

なんと郵便の混乱で、6 月 12 日付けの君の手紙が先週届きました！

郵便のストライキもあり、それに船便で届いたのです。その間、9 月 10 日には我々はパリで会っているのです！ そんなことはどうでもいいのです。君からの手紙を見るのはうれしいし、パリ

では聞かなかった知らせもありました。それに、日本に帰国後知ったいくつかの事項で、君が手紙に書いていることを確認しました。

実際、Lelong は 10 月 13 日から 11 月 3 日まで日本に滞在しました。私はいつも通りフランス大使館科学部や日仏会館と協力して、彼を日本でもてなし、滞在中のスケジュールを作成しました。彼は東京、名古屋、京都、福岡で多くの講演をしました。数学関係の話の中で、 C^n の解析集合での距離の性質、超越数論におけるその結果の応用はとても興味深いものでした。しかし、日仏会館ではフランスにおける科学と技術の組織について講演しました。彼の言ったことは、手紙の君の意見と同じです。私は大いに感じたのですが、フランスでも純粋研究に人が価値を段々おかなくなり、そのことはこの国の魅力を大いに損じています。その上、これは実際世界の全ての国での嘆かわしい傾向で、日本もその例外ではありません。私が目にした Lelong の政治的姿勢は私にはあまり賛成できるものではありませんでした。少し前、Alfred Sauvy が来て日仏会館で講演をしました。彼は Lelong よりはるかによいと感じました。また、現在日仏会館も大使館の文化科学部もよく組織されているとは言い難いことは残念なことです。

(中略)

君の健康をとりわけ祈っています。Sumiko と私から 君と Chevalley 夫人へ心からの友情を。

S. Iyanaga

彌永昌吉氏と C. Chevalley との書簡集目録

No.	年	月日	発信者	発信地	宛先	受信地	Ans. To	言語	手書き	備考	おおまかな内容
1	1954	3月20日	Sylvie Chevalley	Nagoya	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1		彌永夫妻の心遣いへのお礼。Chevalley の健康回復中。Chevalley 氏家族訪問時のお礼。
2	1954	4月22日	Chevalley	Nagoya	Iyanaga	Tokyo		F	1	年号記入無し。封筒有り。消印 昭和29年？	四国と広島旅行から帰宅。東京到着の予定。
3	1954	4月24日	Chevalley	Nagoya	Iyanaga	Tokyo		F	1	一つの封筒に2通。封筒の消印 4月？日。	名古屋の出発予定列車を知らせる。
4	1961	11月19日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1	封筒有り。便箋 表裏。	Yasuo の渡仏・滞在について。小包のお礼。
5	1963	10月7日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F		2枚	Chevalley への送金の協会の不手際。Bruhat 氏の日本滞在。吉田氏の訪仏予定。Delsarte 氏の眼の病気と手術。
6	1963	10月10日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo	10/7	F	1	封筒有り。便箋の表裏。	Delsarte 氏の手術。自身の病気回復。吉田氏来仏歓迎準備。送金の方法。
7	1963	10月12日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Delsarte 氏の手術後回復中の知らせ。Fox 氏来日中。
8	1963	10月16日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris	10/10	F			Delsarte 氏の療養。仏大使館で Bruhat 氏のための昼食会。仏大使。本の印税の受渡し法。本の増刷。
9	1963	12月23日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			カードの礼。Chevalley 氏家族の来日予定。Bruhat, Cartan 来日中。日本数学会からの印税、Bruhat に託した。合衆国旅行予定。
10	1964	3月2日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			日米の科学協力の委員会のついでに3月末にフランス訪問予定。Chevalley 氏家族の訪日について。
11	1964	4月19日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			訪仏の際のもてなしのお礼。来日中の Dieudonné, Chevalley 氏家族の訪日希望について。
12	1964	5月17日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1	封筒あり	Chevalley 氏家族が早稲田の給費生に。
13	1964	6月22日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Nakayama 氏の死去。帰仏中の Delsarte 氏・Nancy 大学へ赴任する Takahashi 一家のこと、同行者のこと。Nobumi の渡仏の希望について。Yasuo の帰国予定。
14	1964	7月8日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo		F	1	年号記入無し。1964	Nakayama 氏の死去について。Nobumi の渡仏のこと。Normandie での Congres Bourbaki。
15	1964	8月24日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Chevalley 氏家族から到着予定の手紙。Nobumi の仏到着と到着後の予定。
16	1964	8月28日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo	8/24	F	1	薄紙 表裏透けて 読みにくい	忙しい今年の夏。Nobumi の渡仏について。Yasuo のこと。Chevalley 氏家族日本に向けて出発、滞日について。
17	1964	9月9日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Chevalley 氏家族の彌永家到着。大学の数学教育についての Katada での日米の集会。
18	1964	9月20日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1		Chevalley 氏家族についての礼。彌永氏の子息二人訪問のこと。
19	1964	9月21日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			滞在中の Chevalley 氏家族の近況。滞仏中の Nobumi, Yasuo の近況、もてなしのお礼。Chevalley 夫人の来日予定。Koszul, MacLane 来訪。Delsarte が来年 Schwartz, Malgrange を招く計画中。
20	1964	9月28日	Iyanaga	Tokyo	Sylvie Chevalley	Paris	9/20	F			Nancy の Nobumi から手紙。Chevalley 氏家族の近況。相模湖バイク旅行。
21	1964	11月16日	Iyanaga	Tokyo	Dr. Enrico Clementi	California	11/4	E			Dr. Bickford と会見。Kodaira と Kuroda 教授への紹介状を託した。
22	1964	11月29日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			仏留学中の Nobumi について。Yasuo 帰国予定。滞日中の Chevalley 氏家族、パスポート紛失。

No.	年	月日	発信者	発信地	宛先	受信地	Ans. To	言語	手書き	備考	おおまかな内容
23	1964	12月14日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Nobumi についての心配と周囲の人の配慮についての感謝。Iyanaga 夫人手術予定。Chevalley の Emil Artin 追悼記事。
24	1964	12月19日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1		Claude ご母堂病氣。Yasuo の帰国予定。Nobumi, Chevalley 氏家族の様子。
25	1964	12月21日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Chancay		F			Nobumi の Chancay 招待へのお礼。Iyanaga 夫人まだ入院中。
26	1964	12月28日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Chancay	12/19	F			Iyanaga 夫人自宅で回復中。Claude ご母堂お見舞い。Nobumi の Chancay 滞在とのお礼。Chevalley 氏家族の日本国内旅行、日本語。
27	1965	1月15日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Nobumi のフランスからの手紙。子息へのもてなしの礼。Yasuo の米国旅行。Chevalley 氏家族の旅行。
28	1965	1月16日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1		Nobumi の Chancay 滞在。彌永夫人へのお見舞い。滞日中の Chevalley 氏家族について。
29	1965	1月17日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Chevalley 氏家族が長崎旅行から帰還。Chevalley ご母堂へのお見舞い。
30	1965	2月1日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris	1/16	F			手紙のお礼。Yasuo の日仏会館での職。Delsarte 氏の尽力。Delsarte 氏の東大で講演。Delsarte 氏家族病氣。Chevalley 氏家族の近況、旅行。大阪での計画。
31	1965	2月8日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			彌永夫人の近い親類死去。Chevalley 氏家族の香港旅行の計画。
32	1965	3月28日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			お悔やみの礼。Chevalley 氏家族の様子、9月離日予定か。Comedie Francaise の展示実現せず。Yasuo の仏大使館での広報職。Legion d'Honneur 勲章受章予定。4月から理学部学部長職。在仏の Nobumi の様子。5月に Mandelbrot と Schwartz 来日予定。
33	1965	5月3日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris	4/13 Mme Chevalley	F		2枚	綴のお礼。学部長の仕事。子供のこと。日本滞在中の Chevalley 氏家族の近況。Nakayama 氏の遺児のこと。
34	1965	6月3日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo	日付 明示無	F	1	A4 半分の 紙2枚 表裏。	日本滞在中の Chevalley 氏家族のこと。Nobumi の仏滞在について。Yasuo にドゴールの本を薦める。
35	1965	6月25日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1	封筒あり。 中に Iyanaga メモもあり。	彌永夫人1人旅で Paris 訪問予定。夏の予定。Chevalley 夫人病氣。
36	1965	7月3日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫人	Tokyo		F	1	封筒あり。 薄い紙の裏表。	Chevalley 氏家族 についてのお礼。Paris 訪問時の予定。Chevalley 夫人病氣。
37	1966	6月9日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo		F		小さい紙の 裏表	Berkeley 滞在予定について。1970 Congres Nice 開催希望について。
38	1966	7月18日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Berkeley		F			渡米予定。Berkeley 訪問の予定について。
39	1970	6月12日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo	6/9 a Paris	F	1		学生運動の抑止の動き。Chevalley の病氣。Chevalley 氏家族のこと。Nice の Congres のためのテキストを Grothendieck と準備。再会楽しみ。
40	1970	8月15日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Kolchin から聞いた Chevalley の病氣の心配。Nice の Congres のための渡仏のスケジュール。夫人の病氣、孫の誕生。再会の楽しみ。
41	1970	9月14日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			渡仏の際の再会の喜び。帰途の飛行機でのフランス古典演劇の本。家族の健康回復に向かう。Kenichi 夫妻に Nice で Grothendieck にももらった Survival の冊子を与える。

No.	年	月日	発信者	発信地	宛先	受信地	Ans. To	言語	手書き	備考	おおまかな内容
42	1970	11月30日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			手紙の大遅配。Lelong 日本滞在中の数学講演、日仏会館でのフランスでの科学と技術についての講演についての感想。Chevalley 氏家族の日本の大学での仏語の職。家族の近況。Kenichi 氏が Survivre について数学セミナーに記事。
43	1971	12月27日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 氏家族		6/12	F			結婚のお祝い
44	1972	3月6日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Chevalley 氏家族の結婚お祝い。"Survivre" 誌のこと。日本棋院の雑誌 "Kido" の更新忘れの詫言。今夏英仏訪問予定。
45	1972	3月10日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo		F	1		Kido 受け取り希望。この冬重い病気をし、手術をしたこと。9月の再会楽しみ。
46	1972	3月20日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Chevalley の重い病気のお見舞い。雑誌 "Kido" 契約更新、そのうち本が届くはず。Kenichi 氏のこと。再会楽しみ。
47	1972	7月3日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris	3/10	F			8月末英国での数学教育の Congress 後訪仏予定。Yasuo 夫妻、Nobumi 訪仏予定。Chevalley 氏家族の訪日予定。
48	1972	8月29日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F	1	年号無し 1972? 手書きの控え	訪仏の予定について。
49	1972	9月2日	Iyanaga	Tokyo	Sylvie Chevalley	Tokyo		F			来日中の Chevalley 夫人への挨拶。自宅へ招待確認。
50	1973	6月2日	Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo		F	1		高木貞治記念集会での寄せ書きに対する感謝。
51	1973	6月18日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			Chevalley 氏家族大使館勤務。Chevalley 夫人の来日予定。
52	1973	8月20日	Sylvie Chevalley	Chancay	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1	封筒有り	Chevalley 夫人の訪日直前。予定や留守のこと。
53	1973	12月24日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley, 家族	Paris		F			9月の Chevalley 夫人来訪のお礼。Chevalley 氏家族に1974年の科学史学会の案内を送る。Chevalley "Kido" を定期的に送る。Gomi の論文送る。高木貞治論文集出版、Chevalley へ高木家より一部送本。
54	1974	7月1日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley 夫妻	Paris		F			数ヶ月ご無沙汰。日仏の文化協定の会合などで数回 Chevalley 氏家族に出会った。8月末東京での科学史の Congress の仏参加者リスト。Vancouver 行き、その後仏訪問の予定。
55	1974	10月10日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			訪欧から帰宅。Chevalley の健康状態回復に少し安心。Chevalley の原稿の紛失。CIEM の President の仕事。
56	1974	12月22日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			渡仏から帰宅。彌永夫人の近い親類の死去。日仏文化誌 No. 30, 31 を Chevalley へ送るよう手配済み。
57	1975	6月14日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga	Tokyo		F		封筒のみ。 Paris 消印	Comedie Francaise の封筒。8/14 返信済みのメモあり。
58	1975	6月14日	Sylvie Chevalley	Paris	Iyanaga 夫妻	Tokyo		F	1	上の封筒の中身の一部分と思われる。	一言 挨拶。(Claude の手紙に一筆追加?)
59	1975	10月12日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Paris 滞在中のお礼。Tuan 氏から預かった写真同封。ハンガリーの Conference の講演の出版原稿のこと。Chevalley の雑誌原稿未着。
60	1976	3月30日	Iyanaga	Tokyo	Chevalley	Paris		F			Chevalley の雑誌原稿のお礼。類体論をあつかった自著の英訳を送った。京都での数論の国際会議終了。Chevalley 氏家族 から知った Chevalley の手術。CIEM の際の夏の訪欧予定。